

# 「齋藤分小学校・二谷小学校」 建替えに伴う学校規模適正化等 検討部会 ニュース

発行日：令和4年8月31日（水）  
発行元：「齋藤分小学校・二谷小学校」  
建替えに伴う学校規模適正化等検討部会  
（事務局：横浜市教育委員会事務局施設部）

## はじめに

本市の学校建替事業は、平成29年5月に策定した「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」に基づき、取組を進めています。

今年度、二谷小学校は、最も古い校舎棟が築65年となり、目標耐用年数の築70年が目前に迫っているため建替えに向けた検討を行っています。また、同基本方針では、学校建替えに併せて学校統合も検討するとしているため、地域、保護者の代表及び学校長からなる検討部会を設置し、小規模校（一般学級の児童数189名・6学級／令和3年5月1日現在）となっている隣接の齋藤分小学校との学校統合も含めた検討をしています。令和4年7月4日に第3回検討部会を開催しましたので、部会での検討状況等について、両校の通学区域内にお住まいの皆さまや保護者の皆さまにお伝えします。

## 第3回検討部会

日時：令和4年7月4日（月）  
18時30分から  
会場：神奈川公会堂2階 第1会議室



## 第3回検討部会での決定事項など

- 第4回部会では、第3回部会の資料や委員の意見等を踏まえ、引き続き、学校統合の方向性について議論することになりました。

※会議の公開・非公開について

検討部会による協議の結果、第3回検討部会は公開で行われました。また、第4回検討部会についても公開とすることになりました。

## 【委員の任免等】

検討部会委員のうち4名の方について、役員交代等の理由により、退任の申し出をいただいたため、横浜市学校規模適正化等検討委員会条例第5条第2項に基づき、新たに4名の委員を任命しました。

### 1 退任した委員（敬称略）

氏名	選出区分	役職名等
仲戸川 新三	地域関係者	神北地区連合町内会 前代表
渡邊 格二郎	保護者代表	栗田谷中学校PTA 前会長
澁谷 武夫	保護者代表	松本中学校PTA 前会長
鈴木 厚	学校関係者	六角橋中学校 前校長

### 2 任命した委員（敬称略）

氏名	選出区分	役職名等
平林 吉明	地域関係者	神北地区連合町内会 代表
関 光雄	保護者代表	栗田谷中学校PTA 会長
小谷野 貴弘	保護者代表	松本中学校PTA 会長
枝迫 大成	学校関係者	六角橋中学校 校長

## 【建替えに伴う学校規模適正化等の検討について（議題）】

第3回部会の資料は、部会において部会委員の皆さまに御検討いただくために事務局で検討、作成し、御提供したもので、内容については決定事項ではありません。

なお、部会ニュースの作成にあたって、紙面の都合上、一部を抜粋しています。

### I 統合前後の学校の様子について（部会での主な意見：☆8）

直近で学校統合をした学校長に統合前後の学校の様子についてヒアリングを行いました。

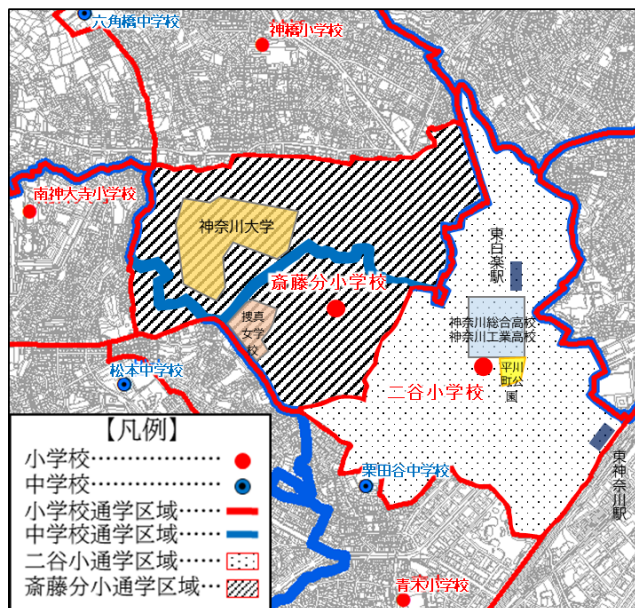
ヒアリング先：上菅田笹の丘小(旧上菅田小・旧笹山小)、旧すすき野小、菅田の丘小(旧池上小・旧菅田小)、丸山台中学校(旧野庭中・旧丸山台中)

	統合前の様子	統合後の様子
児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人間関係ができあがってしまい、子ども達は本来であればしなくても良い我慢を子どもなりにしている。</li> <li>◆同学年集団の形成ができない分、異学年集団での活動が多いので、上級生の面倒見が良くなる。</li> <li>◆人数が少ない分、子ども達も学校運営のために一人で何役も担う必要があり、積極的な子が多かった。</li> <li>◆少人数になると集団で学習するなかで、多様性を学べる機会を得にくい。</li> <li>◆小規模の集団で生活しているため、中学校や高校に進学した際に、大規模な集団の中で自主性を出すことに苦労している印象が受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆受入れ前はそのままが良いと言っていたが、統合後は友達が増えたと喜んでいたりも多かった。</li> <li>◆遠足などの行事を学年ごとで行うことができた。</li> <li>◆高学年ほど統合に戸惑いがあった。心理的負担もあったと思う。</li> <li>◆特に低学年は友達が増えたことを喜ぶ子どもが多かった。</li> <li>◆同学年の様々な人と関わることで、切磋琢磨し、多様性がより広がる。</li> </ul>
教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆転入学手続きや行事の準備など、一人で複数の学校運営に関する業務を担う必要があり、負担になっている。</li> <li>◆学年の運営を一人で担うため、多様な考えを持った教職員間において、議論を深めて運営を行うことができる組織を作りにくい。</li> <li>◆質の高い教育を提供するために他校で実施される研究授業などの研修に参加する時間が取りにくい。</li> <li>◆本来であれば経験を積んでから担うことの多い学年主任などの業務も、若手教員が一人で担わなければならない、運営に苦慮していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教職員の人数が増えたことで、転入学手続きや行事の準備などの学校運営に関する業務を複数人で担当することができ、その分を授業の準備に費やすことができるようになった。</li> <li>◆統合初期は、統合前の学校での指導方法の擦り合わせがうまくいかずに、教職員同士のまとまりに欠けていた。</li> <li>◆他校で実施される研究授業などの研修に参加しやすくなり、能力向上に時間を費やすことができる。</li> <li>◆同一学年内に若手、中堅、ベテランをバランスよく配置することができ、安定した学年運営が行えるほか、若手の育成も行うことができる。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人数が少なく、役員を何度も担う必要があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人数が増えたことで、負担が少なくなった。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開校当初は両校の良いところだけを持ち寄っているの、全市のなかで一番良い学校を作ることができるチャンスと捉えている。</li> <li>◆統合校の開校まで、1～2年しか準備期間が無かったが、もう少し準備期間があった方が良かった。</li> </ul>	

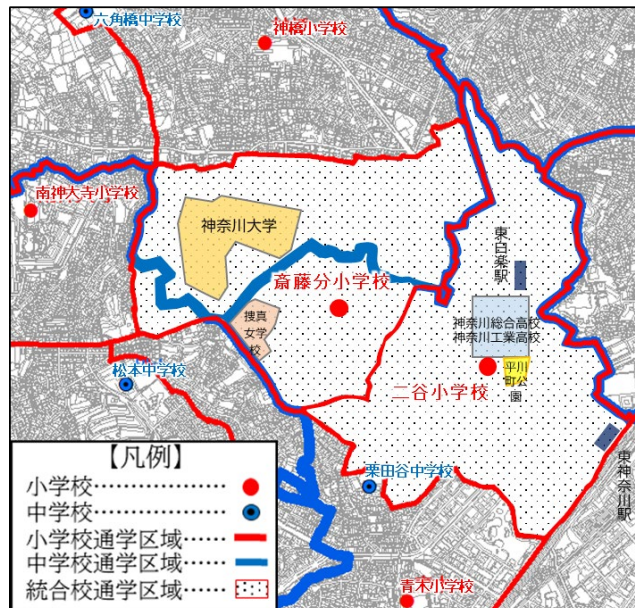
## 2 仮に統合を行った場合の統合校の通学区域について

統合校の通学区域については、現在の斎藤分小学校と二谷小学校の通学区域を合わせた区域を想定しています。

### (1) 通学区域（第2回部会にて提示）



(現在の通学区域)



(統合後の通学区域)

### (2) 特別調整通学区域設定の検討について

案	設定意図
ア	統合校までの通学距離が長い神奈川大学の北側及び西側を対象に、通学距離が短い神橋小学校、または南神大寺小学校を選択できるようにすることで、通学の負担軽減を図る。
イ	神奈川大学の北側及び西側のうち、中学校の通学区域に合わせて、六角橋中学校の通学区域については神橋小学校、松本中学校の通学区域については南神大寺小学校を選択できるようにすることで、通学の負担軽減を図るとともに、小中不一致の解消を図る。
ウ	六角橋自治連合会の繋がりや特性を考慮する。
エ	六角橋自治連合会の繋がりや特性を考慮するとともに、中学校の通学区域に合わせて、小中不一致の解消を図る。

### 案ア

神奈川大学の北側及び西側の地域に、神橋小学校または南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定する場合

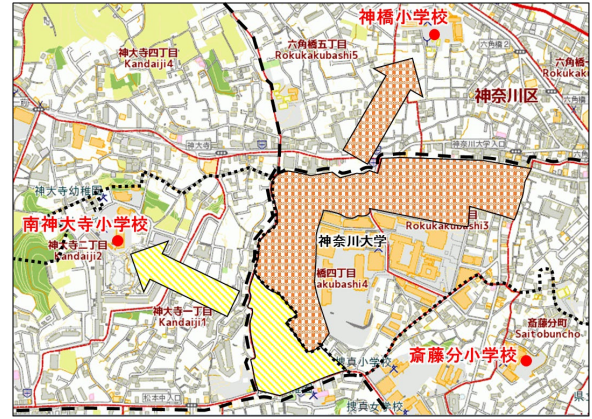
特別調整通学区域の設定パターン案

- ① 統合校または神橋小学校から選択
- ② 統合校または南神大寺小学校から選択
- ③ 統合校または神橋小学校、南神大寺小学校から選択



### 案イ

神奈川大学の北側及び西側の地域に、中学校の通学区域に合わせて、神橋小学校または南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定する場合

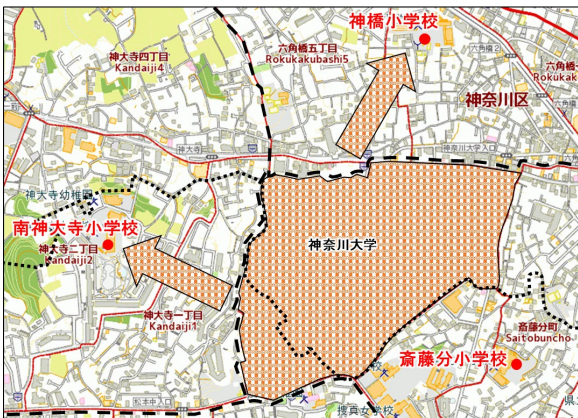


### 案ウ

六角橋三丁目・四丁目の全域に、神橋小学校または南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定する場合

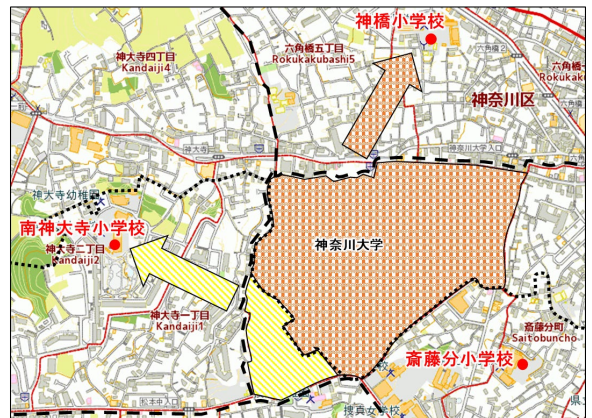
特別調整通学区域の設定パターン案

- ① 統合校または神橋小学校から選択
- ② 統合校または南神大寺小学校から選択
- ③ 統合校、神橋小学校、または南神大寺小学校から選択



### 案エ

六角橋三丁目・四丁目の全域に、中学校の通学区域に合わせて、神橋小学校または南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定する場合



【凡例】小学校… ● 小学校通学区域… — 中学校通学区域… - - - 特別調整通学区域(案) [Dotted pattern] [Yellow diagonal lines]

※中学校については、統合校との小中一致を考慮し、栗田谷中学校を選択できるような設定することも検討。

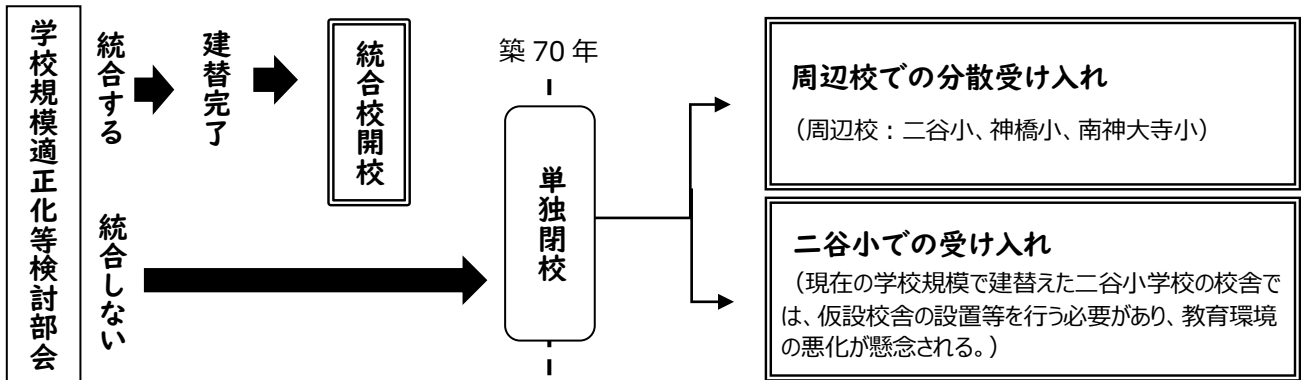
## 3 閉校後の学校施設の後利用に関する取組みについて

(部会での主な意見☆9, ☆10, ☆11, ☆17)

統合後、学校施設として利用しなかった23校の後利用検討状況について取りまとめたところ、16校で後利用検討委員会等が設置されていました。そのうち8校で地域要望に基づく後利用施設となっています。残りの8校については、私立学校となった1校を除き、現在検討中です。

#### 4 学校統合を行わなかった場合の斎藤分小学校について（部会での主な意見：☆16, ☆18）

今回、斎藤分小学校と二谷小学校が学校統合を行わなかった場合、建物の目標耐用年数である築 70 年時に、二谷小学校もしくは二谷小学校を含めた周辺校で受け入れを行う形で閉校することになります。



#### 懸念されるポイント

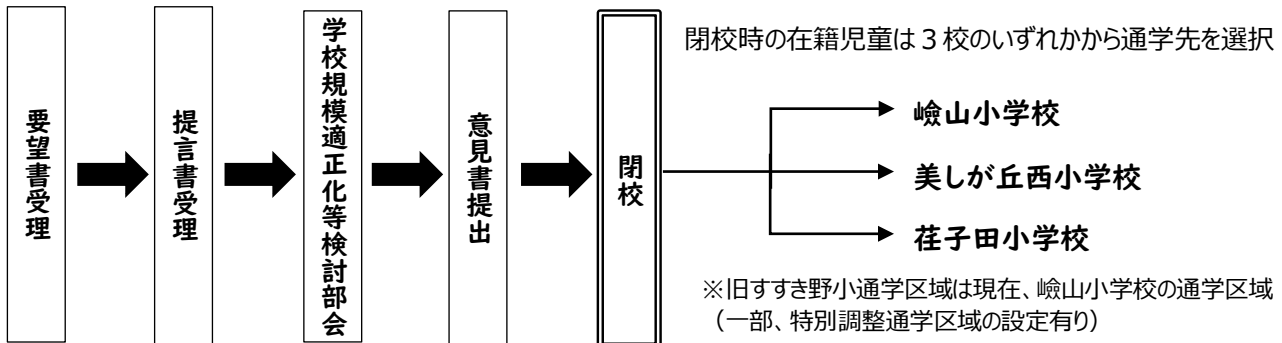
##### ■ 周辺校で分散受け入れする場合

- ・斎藤分小学校の児童が各校に散らばることで、子ども達が分断されてしまう。
- ・数校に通学区域変更されることにより、地域が分断されてしまう。

##### ■ 二谷小学校で全児童を受け入れる場合

- ・児童数の推移からみると、現在の学校規模で建替えた二谷小学校の新校舎で、斎藤分小学校の全児童を受け入れることは難しい。
- ・斎藤分小学校の全児童を受け入れるためには、仮設校舎の設置等を行う必要があり、建替えによって良くなった環境が目減りしてしまうことが懸念される。

#### 【参考】旧すすき野小学校（青葉区）における学校規模適正化等の流れ



#### 5 国の少人数学級導入に関する動き

令和3年3月に義務標準法が改正され、令和3年4月1日より、小学校において段階的な 35 人学級の導入が始まり、令和7年度までに全学年が 35 人学級となります。

この動きを受けて、小学校 35 人学級の計画的な整備や、今後の指導体制の更なる充実を図っていく上での課題を国と地方が共有し、連携して課題解消に向けた方策を検討していくために、文部科学省と全国知事会等の自治体の代表で構成される「今後の教職員定数の在り方等に関する国と地方の協議の場」が設置されました。これまで2回協議が開催され、その中では、少人数学級の効果検証や教室不足への対応を含めた環境整備について議論されておりますが、現在、30 人学級の議論は行われておりません。

#### 開催概要(抜粋)

##### 【開催日】

第1回(令和3年5月17日)、第2回(令和3年11月19日)

##### 【主な意見】

- ・中学校についても 35 人学級の実現が必要。
- ・全国的に教員不足が指摘されており、質の高い人材の確保や教職の魅力化が課題。
- ・35 人学級の実施に伴う教室不足への対応のため、増改築が必要など

**【仮に学校統合した場合の、建替えプラン検討案について】** (部会での主な意見：☆6, ☆15)

この資料は、参考資料です。仮に、このような校舎配置とした場合を想定したイメージ図です。(統合の場合 19 学級想定)  
 今後の設計等において、配置及び屋内の状況等は変更する可能性があります。

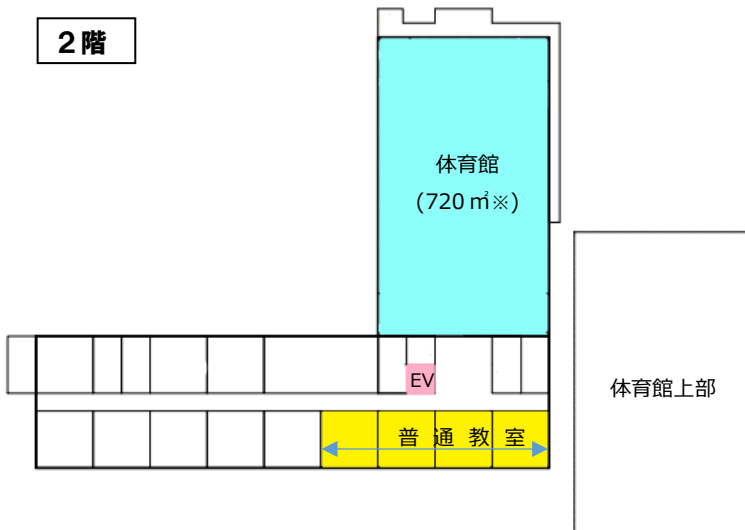
**L字型案**

**1階** (主に管理諸室・放課後キッズクラブ・地域交流室等)



計画上のグラウンド面積: 約 3,100 m<sup>2</sup> (トラック: 120m、直線 75m)

**2階**



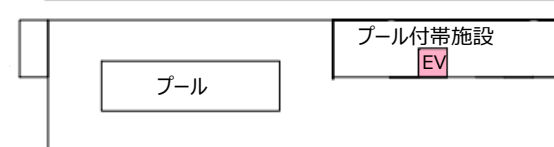
**3階**



**4階**



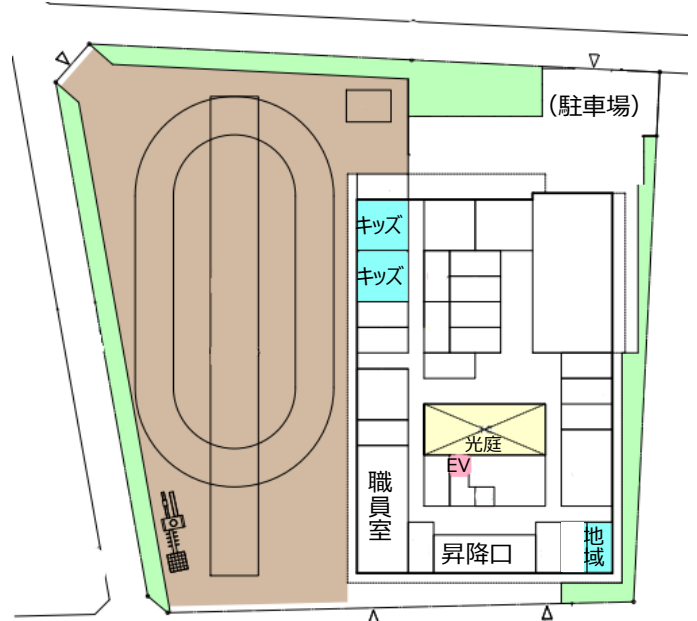
**5階**



(参考) 二谷小既存グラウンド面積: 2,173 m<sup>2</sup>、既存体育館面積: 560 m<sup>2</sup>※  
 斎藤小既存グラウンド面積: 2,426 m<sup>2</sup>、既存体育館面積: 420 m<sup>2</sup>※  
 ※体育館面積は、アリーナ面積を記載

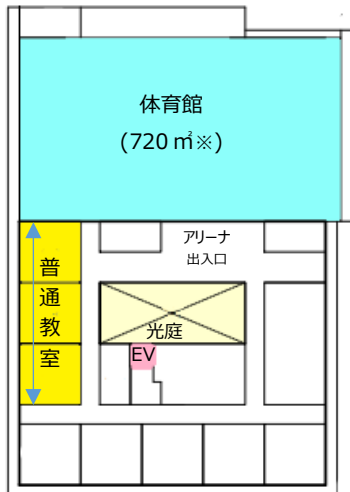
**回廊型案**

**1階** (主に管理諸室・放課後キッズクラブ・地域交流室等)



計画上のグラウンド面積: 約 3,100 m<sup>2</sup> (トラック: 120m、直線 80m)

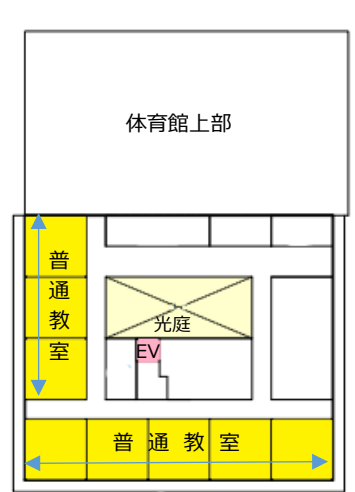
**2階**



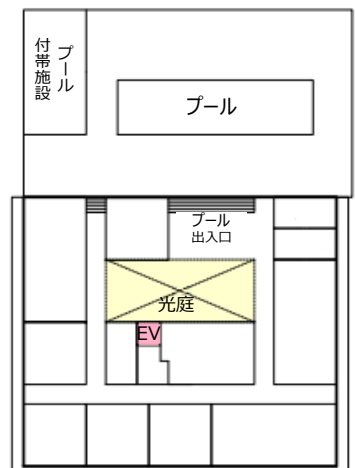
**4階**



**3階**



**5階** (特別教室・多目的教室)



## 【第2回検討部会以降に寄せられた意見】（凡例 ◆：意見）

第2回部会から第3回部会（令和4年7月4日）までに寄せられた御意見が7件ありました。

- ◆統廃合（斎藤分小学校廃校）に危惧を感じています。「検討部会ニュース第2号」では、小規模校の利点や課題が紹介されていますが、斎藤分小学校関係者の意見では「斎藤分小学校には指摘されている『課題』は存在していない」です。教職員と児童、保護者、地域の方々などの努力のたまものだと思います。小学校を統廃合し少子化が加速、税収減収という悪循環ではなく、魅力ある学校を発展させ、子どもにも地域にもより明るい未来を目指すべきだと思います。
- ◆暫定の特別調整通学区域案について、私の家の前の道路を境に我が家が含まれておらず、不安を覚えました。神奈川大学を除き、六角橋3丁目で特別調整通学区域に入っていないのは私の家一角のみとなります。六角橋南町内会にも入っており、近所のお友達（六角橋3丁目内）は我が家以外みんな神橋小学校を選択することができ、ほぼ、神橋小学校から六角橋中学校への進学が予想出来ますので、同じ町内会で通学区域の選択可否を分けないでください。
- ◆「部会ニュース第2号」について、A地点やB地点から二谷小までの距離は遠いと思います。神橋小学校や南神大寺小学校への通学を認めるようにしてほしいです。斎藤分小学校のPTAの方が27分という地図上の距離を歩いたところ、実際には40分かかったそうです。我が子は斎藤分小学校に通うとき、片道25分かかっています。また、神大生の通学の流れにさからって進まなくてはならず、歩道を大学生が歩いていると、子どもの方が車道側に降りているのが現状です。そのため、心配で親がついて登下校をしています。これが二谷小となると片道40分かかりますが、神橋小であれば片道10分というのは大きなメリットです。ぜひ、特別調整通学区域を設定してほしいです。次に、仮に統合して選べる地域が設定されたとき、既に入學している子は、学校を選択できるようになるのでしょうか。下の子はこれから入學なので選択できると思いますが、上の子は既に斎藤分小学校に通っているので二谷小学校ということになってしまいます。特別調整通学区域を設定した場合には、既に入學している子も下の子に合わせて同じ学校に通えるように、学校を選べるようにしてほしいです。
- ◆統廃合をする必要はないと思います。
  - 1 小規模校を合併するという制度自体が、コロナ蔓延以前に制定されたもので、時代に合っているものとは思えません。
  - 2 斎藤分小学校の建替えを行う場合は他の学校と統合する必要があるとありますが、現時点で問題がないのにも関わらず統廃合前提で進める必要はないです。建替えに伴い、グラウンドなどが狭くなるなどと理由が挙げられていますが、現在と同じものを作るのであれば問題ありません。なぜ斎藤分小学校が無くならなければいけないような制度を持ち出しているのか、制度に沿わなくても十分に機能しています。
  - 3 全てを同じような規模の学校にすると、行き場を失ってしまう児童は多いと思います。なんでもみんなと同じように行動し、その中で生活しなければいけないということ自体が登校拒否を増やす可能性もあります。また個性を尊重するという姿勢が見られません。小規模であることのメリットを見て越境して通学する子どももいます。
  - 4 今後子どもの質を高めていく面でも、児童に目が届くような教育、小規模でのメリットを追求すべきです。教育費は今後の日本を考える上で減らすべきでないと考えます。
- ◆平川町公園は二谷小の児童たちの放課後の溜まり場の存在にも関わらず、校舎を広げる際に公園の一部を利用するよう提案があり、それを受けて、教育委員会は「公園管理者や利用団体に知らせる」と回答されています。これは子どものことが抜け落ちた意見と回答だと思います。通学する児童最優先の議論を教育委員会がリードするようお願いします。

◆2校の統廃合問題について、市民の一人としての反対の声を聞いて下さい。

- 1 学区が広くなると、通学の距離が長くなり、登下校の子どもたちの負担も大きくなり、健康面、学習の集中力の面でとても心配です。
- 2 斎藤分町の地域の方々が、地元の学校として子ども達を支えてくれている関係が、希薄になっていくのではと思います。
- 3 団塊世代の私は、小学校・中学校と大規模で過ごし、大規模の良さより、弊害を味わいました。もっとゆっくり友達と話したかった。先生との思い出もあまりありません。聞くところによると斎藤分小学校は、先生と子ども達の良い関係が保たれているとのこと。大事な小学校時代の人間関係は、厳しい大人社会に向かう子ども達にとってかけがえのないものになることと思います。
- 4 せっかくある学校を吸収合併するメリットは何でしょうか？逆に小規模校の良さを見直す時代ではないでしょうか。大事な人間形成の基礎となるかけがえのない小学校生活の場をこれを機会に親と子ども達で話し合う事が大事ではないかと思えます。

◆斎藤分小学校と二谷小学校を合併する計画があると聞きました。特に斎藤分小学校は校舎がなくなってしまうとのこと、今まで大切にしてきた学校の歴史が消えてしまうのは、とても大変なことです。地域を愛する心を養う為にも歴史ある小学校をなくさないでください。合併することで規模が大きくなることも心配です。今、教育にもっと力を入れることが求められているのですから、小規模で、一人一人に寄り添える学校は大切です。どうか2校を合併することは中止してください。

※ お寄せいただいた御意見等は、全て検討部会にて報告しています。なお、紙面の都合上抜粋して掲載しています。

## 【部会における主な発言や質問】（凡例 ☆：委員等からの主な発言 ⇒：事務局からの説明・回答）

☆1 今回の話の発端は、二谷小学校の最も古い校舎の建替時期が迫っているためと聞いていますが、前回の議事録では、主な校舎はまだ建替時期ではないとなっています。この点について、一般的なコスト感覚で、わざわざ統合して建替える妥当性を感じられないという意見が出ています。

⇒一番古い校舎だけを部分的に残して建替えると、今後、他の校舎を建替えるときに、既に建替えた部分を残して建設しなければならないので、制約が大きくなってしまいます。学校によっては、部分的に順次建替えるところもあると思いますが、二谷小学校の場合は、一括して建替えなければ横浜市基準のグラウンド面積を確保できないため、最も古い校舎が築65年になることを契機に全体を建替える形にしました。

☆2 六角橋南町内会で寄せられた意見を紹介させていただきます。

「斎藤分小学校の統合問題が出てきてから、来年、小学校に入学する世帯が既にこの地区から二谷小学校のエリアに引っ越しました。斎藤分小学校の通学区域から二谷小学校に通学することは、それほど考えられないことです。そして、この現象は、小学校の統合が地域の衰退につながることを表しています。地域に根差した小学校がないというハンデの押しつけは、最も重大なことかもしれません。行政には、地域の求めたことを判断し、それに誠実に応えることが求められます。最初に決めたことに固執するのではなく、そこに暮らしている住民に聞かなければ分からないことを聞いてください。最初の説明会で教育委員会の方が言われた結論ありきではないとの言葉を信じています」という意見をいただきました。

☆3 今回統合しなかった場合、今の斎藤分小学校の校舎は何年ぐらい使えると考えていますか。

⇒一番古い校舎は築56年なので、目標耐用年数(70年)を考えると、あと15年ぐらいは使えると考えています。



☆4 周辺の学校では、ここ10年弱は児童が増加の傾向にありますが、それ以降は大体、どの学校も児童数が減ると思います。

⇒地域によって児童の増減に差があります。二谷小学校は最近増えています。駅の近くの街道沿いに小さなマンション開発などがあって増えていることが理由だと思います。

☆5 仮設校舎で教育環境が悪くなるという話がありましたが、幸ヶ谷小学校は仮設校舎を建てて、グラウンドがまた別のところになっています。そうすると、幸ヶ谷小学校は、教育環境が大分悪くなったのですか。

⇒幸ヶ谷小学校ではグラウンドに増築の校舎を建てたという経緯があります。それは当時、他に受け入れられる学校がなく、また隣の公園をグラウンドとして借りられる状況があったので、できる限り教育環境が低下しないよう判断した形になります。ただ、自校の校地の中にグラウンドがないのは、環境として良い形ではないと思います。

☆6 資料中の「仮に統合した場合の、建替後の屋内イメージについて」(6ページ参照)ですが、統合した場合としない場合の両方の資料を出された方が、会議の中で話がしやすいと思います。次回、それを示してください。

⇒分かりました。

☆7 二谷小学校の隣に平川町公園がありますが、公園を少しもらって学校を広げられないかということで、教育委員会が見に来られたようですが、その後、その話は怎么样了のですか。

⇒隣の公園を利用すると開発許可が必要となり、校地面積はある程度広がりますが、道路幅に面積を取られる部分もあり、結果として校地がそこまで広がらず、また、開発許可の手續に約1年以上かかるため、建替校の完成が遅れる問題もあります。加えて、公園を所管する環境創造局からは、公園を利用して公共施設を建てたケース(例:横浜市立市民病院)もありますが、手續として、地元の合意を得るのが難しいと聞いています。二谷小学校の周辺は公園が十分にある地域ではなく、公園を減らすことに対する理屈が難しいと聞いています。

☆8 資料中の「統合前後の学校の様子について」(2ページ参照)ですが、教育委員会が学校長に質問した内容ではなく、統合された学校の、例えばPTAや児童、あるいは地域の方が現在どう思っているかが重要です。もし資料として提示いただけるのであれば、そういった生の声をお聞かせいただきたいと思います。

⇒次回の部会までに、可能な範囲でそういった方々からお話を伺い、資料として示させていただくことができれば、お示したいと思います。

☆9 斎藤分小学校についてですが、万が一統合となった場合に、後利用について地域から何の要望もなかったら勝手に検討を進められてしまうということはあるのですか。

⇒基本的にはありません。こういう使い方で後利用を考えていますということ、地域にしっかり話しながら合意形成を進めたいので、後利用を決める形を、どこの地域でも取らせていただいていると思います。基本的には、地域から御要望や御意見を伺いながら検討していくのがスタンダードなやり方です。

☆10 地域でのアンケートの結果、後利用が心配だという声が多いです。10年後の学校統合まで後利用が曖昧なまま放っておかれるというのでは、皆さん納得しないと思います。

⇒これまで、概ね統合を決めてから1～2年ぐらいで統合するという形でした。このため、こうした検討部会が終わって一息ついたあたりから、地域と後利用の検討を始めるのが通例でした。今回に関しては、もし統合するのであれば、建替えが終わった後ということで、期間がありますので、これまでの他の地域とは少し異なる形で後利用の検討をスタートしなければいけないなと思っています。

☆11 どの部署が後利用に関する要望を聞き取り、どのような流れでプラン案が決まり、その案をどの段階で誰が地域に下ろして誰が最終的に決めるのか、フローチャートでもいいので資料が欲しかったです。

⇒次回出させていただきます。

☆12 これから数年間は齋藤分小学校のエリアから児童が転出していくことや、小学校が存在しないことで、新たに転入してくる若い世帯もいなくなると思います。そのため、地域の衰退につながると思いますが、そこに対するケアは、区政推進課はどのようにしていただけるのでしょうか。

⇒地域の方々と一緒に話し合いながら、どんな取組ができるのか一緒に検討させていただきたいと思います。

☆13 2回目の部会以降に寄せられた意見を改めて紹介します。「小規模校のデメリットが解消されると再三説明を受けていますが、齋藤分小学校が小規模校になったのは2002年で、もう20年も経っています。本当にデメリットがあるのであれば、何で今まで何もしてこなかったのか」という意見が出ています。さらに、「他校の建替えに合わせて統合すれば済むという今の基本方針にそもそも反対です」という意見もあります。また、「あくまで大人の都合としか思えず、子どもの教育を考えているとは思えない」という意見も出ています。

☆14 今回、二谷小学校のグラウンドを広くするという提案になっています。文部科学省の基準を満たしていないという話がありましたが、建替え後は、その基準を満たす広さになるのでしょうか。

⇒校庭の広さについては、文部科学省の推奨するグラウンドの広さは確保できません。それを計算すると恐らく4,000~5,000㎡ぐらいの広さになるので、それを確保するのは難しい状況です。横浜市の小学校で文部科学省の基準を満たす面積を確保できている学校はそこまで多くなく、横浜市としては、小学校では3,800㎡ぐらいは確保したいと考えています。ただし、二谷小学校の場合は最大で3,100㎡になると考えています。

☆15 校舎が5階建てになることで子どもへの負担が増えますので、グラウンドを広くするよりも3階建て程度に収めた規模で十分だと思います。それに伴い無理やり齋藤分小学校を統合させる必要もないと考えています。

☆16 学校統合を行わなかった場合の齋藤分小学校について、資料のなかで懸念されるポイントを挙げていただいています。このなかで、数校に通学区域が変更されることで地域が分断されてしまうと書かれていますが、それは今回、二谷小学校と統合しても同じことが言えると思います。特に六角橋南町内会については、子ども会自体も成り立たないという状況が出てきます。地域の衰退とかにもつながってくると考えられますので、今回のタイミングで統合は必要ないと思っています。

☆17 後利用について、旭区の若葉台西中学校が平成19年に閉校して、現在も検討中ということですが、この15年間はどのような状態で置かれて、校舎はそのままでしょうか。周りの木などはきちんと手入れされているのかという心配があります。もし齋藤分小学校が15年放置されて、木もうっそうとした状態だと、周りの地域においても防犯上、良くないのではないのでしょうか。

⇒若葉台西中学校については、文化芸術分野の市民活動拠点のような形で後利用することで、地域と市で合意していますが、実際、担い手となる団体をどのようにするか決まっていないため、時間がかかっています。

現在は、地域のNPO法人が校舎を使って活動しています。若葉台西中学校だけでなく、他の学校も基本的に暫定利用期間中は教育委員会で樹木の剪定などを行っていますので、樹木が繁茂することは基本的にありません。

☆18 資料中の「学校統合を行わなかった場合」(5ページ参照)の参考欄ですが、すすき野小学校は児童数の減少によりPTAから提言書が出されたということで、齋藤分小学校の築70年での閉校の参考資料としては違うのではないかと感じました。

⇒今回、すすき野小学校の他に単独で閉校した事例がないため、この事例を出させていただきました。

☆19 部会ニュース第2号で、長寿命化という言葉が出ています。横浜市の方針では目標耐用年数は築70年で、それ以上の延命を目的とした改修工事は行わず、「校舎等の構造躯体の長寿命化を図る改修(長寿命化改修)は想定していません」と書いてありますが、想定していないだけで実際に長寿命化は可能なのでしょうか。

⇒技術的には、ある程度延ばすことは可能です。実際、他の事例で20年程度伸ばしているものはあると思います。

☆20 齋藤分小学校は改築工事ができないと話をされていました。現在の齋藤分小学校は、恐らく40年前か30年前に建てたと思うのですが、その時は建てて今回は建たない理由は何か教えてください。

⇒絶対建たないということはないと思いますが、今、建設に対する目が厳しくなっていることもあり、特に大型の車両が出入りすることに対して非常に厳しい御意見があります。このため、小さな車両で少しずつ機材を搬入すると、建設期間が2倍になることもあるため、現実的に難しいだろうという意味で申し上げました。

☆21 二谷小学校も齋藤分小学校も児童数は向こう10年ぐらいだと微増しています。児童数が微増していたり、ほとんど変わらない中で統合した例はあるのでしょうか。

⇒他の統合した学校がどのような児童数で、今後どのように見込まれるかという資料が今はありませんので、それについては、次回、御用意させていただきます。

☆22 小学校のまま建替えるにしても、後利用で別の建物にするにしても、地域への迷惑は変わりません。なぜ小学校だったら許容できなくて、ほかなら許容できると教育委員会が判断しているのでしょうか。

⇒建替えの場合は、そこに児童がいながら建替えをしなければいけません。地域の方だけの問題ではありません。授業を継続しながらの建替えとなるとかなり難しいと考えています。

☆23 建替えの児童への負担というのは、二谷小の子どもたちはこれから経験するわけですよね。二谷小ができて、齋藤分小ができないと判断した理由を教えてください。

⇒二谷小の場合は、統合してL字型校舎とする場合ですが、仮設体育館を造った上で、プールと体育館を壊し、そこに校舎を建てるような形を取ることで、比較的短時間で工事ができると考えています。齋藤分小学校と異なり、周りの道路も狭いわけではないので、解体も含めて長期化はしないと考えています。

☆24 齋藤分小学校も道路を挟んでプールの敷地があるので、プレハブ校舎を作った上での建替えはできると思いますが、それが期間的に二谷小学校と齋藤分小学校でどの程度違うというイメージを持たれていますか。

⇒2倍以上は時間がかかると思います。狭い道路だと、やはり長期化する傾向があります。特に齋藤分小の場合は解体にも時間がかかり、建設にも時間がかかります。相当長期化して、もしかすると10年以上になってしまう可能性もあります。

☆25 クラス替えができない等、資料にありましたが、教育委員会としてそれが本当に問題だと思っているのでしょうか。小規模校の良さを見直すべきという声がある中で、方針を再度検討していくことはないのでしょうか。

⇒小規模校を解消して適正規模校化するという国の方針は変わっていませんので、横浜市の方針もその部分が変わっていません。「少人数学級」と「小規模校」は全く違う話です。「少人数学級」は1クラスの人数は少ない方がいいということで35人学級も導入されたものですが、小規模校はクラス替えができないことや先生方の定数が少なく、負担が大きいことなどの課題があります。そのことは国も含めて横浜市も課題と思っています。

☆26 中学校に進学して、そのクラスを良くしようとしたとき、他の小学校出身の子どもたちは「困っている人がいたら助けます」といった比較的端的な意見が出る中で、齋藤分小学校出身の子どもたちは「どうしたら困っている人を助けられるか」など、深く考えた意見を出しています。それは、単級でクラス替えという逃げ場がない中で、人間関係を良好に保つために考えていた結果ではないかと思います。少なくとも齋藤分小学校においては、小規模校のデメリットは無いと思います。

☆27 齋藤分小学校を建替えるとした場合、仮設校舎は学校の敷地内に限る必要はないと思います。近くには神奈川大学や捜真女学校もあるため、借用出来る場所も多いと思います。そのため、齋藤分小学校を建替える際に、学校の敷地内に仮設校舎を建てなければいけない訳ではないと思います。そもそも齋藤分小を建て替えるという検討はされていないのですが、本当に建替えるとなった場合、様々な方法があると思います。

☆28 基本方針には、建替えに際して、今回の場合は斎藤分小学校になりますが、周辺の小規模校との学校統合を検討するとあります。一度校舎を建てると50年、60年と使うこととなりますが、その期間内にその小規模校が、さらに小規模化が進んで閉校となった場合、その転入を受け入れるには受入校のサイズ感が大事になってくると思います。

15年後に斎藤分小学校の校舎が目標耐用年数である築70年を迎えたときの建替えの可能性については、現段階では難しいという回答を教育委員会からいただいています。また、斎藤分小学校の建替えの要望を地域や学校、PTA等が出したとしても、今の段階で15年後に予算を教育委員会がしっかり取り、斎藤分小学校を維持しなさいと求めていくことは難しいのではないかと考えています。

☆29 今のところ、二谷小学校としては、統合に関しては受け入れるという保護者の意見が、どちらでもよいを含めると多数になると思います。ただ、仮に今回のタイミングで統合せず、15年後に斎藤分小学校が建替えられずに閉校となった際に、二谷小学校が受け入れるとなったとして、15年前の二谷小学校の建替規模では受け入れられず、せっかく広くしたグラウンドに仮設校舎をつくることにすると、15年前に受入れが難しい可能性が分かっていて、15年後に検討する人たちやその時に二谷小学校に通っている児童に伝えなければならないことを、私としては心苦しく感じます。

☆30 二谷小学校側からは、今の時期の統合をお願いしたいです。斎藤分小学校側の皆さまには、15年後に建替わるということが実際どうなるのだろうかということを、もう少し考えていただけたらと思います。今なら受入れに関しては、二谷小学校の保護者の恐らくほとんどの人たちが前向きです。もし、今のタイミングで統合ということになればしっかりと話し合いをして、より良い新しい学校にしていけたらと思います。

☆31 最初から分散受け入れができるような形で、二谷小学校に少しゆとりを持って設計することはできないのでしょうか。なぜぴったりで造ろうとするのでしょうか。

⇒文部科学省の基準で、基本的には建物が完成する時点か、あるいは2年ぐらい先までの児童数をしっかり出して、その学級数でなければ整備ができない形になっています。そのため二谷小学校を、余裕を持って造ることはできません。一方で、周辺の数校で受け入れるのであれば、それぞれの余裕教室を少しずつ集めるような形で、可能性はあると思います。

☆32 校舎建設にあたり、ゆとりを持った設計ができない理由は、法律の縛りがあるからなのでしょう。それとも、積算上の予算の制約ということでしょうか。

⇒補助金の関係です。

#### ◆第4回検討部会について

※会議は公開で行います。傍聴希望の方は、下記ホームページに掲載の会議案内を御確認ください。

- ・日時：令和4年10月3日(月) 18時30分から
- ・会場：六角橋地域ケアプラザ 2階 多目的ホール
- ・検討内容：建替えに伴う学校規模適正化等について



#### ◆「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会の経過等について

部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからも御覧になれます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html>



#### ◆事務局（お問い合わせ先）

皆さまからの御意見や御質問を受け付けております。Eメール、電話またはFAXでお寄せ下さい。

横浜市教育委員会事務局施設部

Eメール:ky-kanagawa2021@city.yokohama.jp TEL:045-671-3252 FAX:045-651-1417

